

学校だより 「'10まかべ」

第19号

2010（平成22）年9月22日

糸満市立真壁小学校

台風11号の影響で、運動場のあちこちに水たまりが出来ていました。保護者の迅速な判断で、早朝から水をくみ出したり砂を撒いたりする懸命な復旧作業に取り組んで下さいました。心より感謝いたします。→



登校したら、まずはテント下へ椅子を運びます。大きく膨らんだ期待と意欲で、足取りが軽く、笑顔に満ちています。高学年生は、すでに職員と一緒に線引きなどの準備に入っていました。→



感動の運動会！ …児童の懸命な演技と走りと真摯な係活動に、保護者の心温まる協力と最後までの見守りに 9/19（日）



「中身の濃い、いい運動会でした」という声を頂きました。授業を大切にしつつ、児童の育ちを促す運動会を目指しています。更なる、充実と改善を図っていきたく考えています。

【1・2年】



←昨年度までは「かけっこ」でしたが、今年度は「折り返しリレー」に挑戦です。自己中心性が強く残っているため、バトンパスには気持ちの指導が重要になります。



案の定、バトンパスの大切さは、自分や相手が落としたときに初めて、少しずつ身にしみてきたようです。コーナーの周り方に、1・2年生なりの巧みさを見せています。→



↑ リズム「おすしやさん」は、1・2年合同の演技です。まわる、跳ねる、腰を振る、手を振る等々、1・2年生が手足の機能の進化を見せつけるように、テンポ良く心地よく踊っていました。

【3・4年】



←3・4年生のリレーは、二学年児童を混合にして、4チーム編成したのが大きな特徴です。4年生と一緒に走っても、3年生の脚力が見劣りしなかったのは驚きです。きつと必死になって走ったのでしょう。



4チームが、順調なバトンパスとコーナートップを守って、大接戦のまま最終走者までいきました。コーナーを走る後ろ姿から力強さが伝わってきます。→



←演技名は「心を一につに千変万化」です。3名で一つの大きな下駄を履くことで身体が一つになります。まさに、心を一につにしないと前に進むことができません。「心を一につにするにはどうするか」を考える絶好の種目です。

保護者の出番の多い、素晴らしい企画の運動会だと自画自賛しています。PTAリレー、老人パレード、そして右写真は6年生リレーでの保護者チームです。昔取った杵柄（きねづか）がまだ錆びてなく、競技選手並みの素晴らしいバトンパスです。→



【5・6年】



↑運動会の最後をつとめたエイサーです。エイサーのリズムを耳にすると、沖縄人の血が騒ぎ出します。その伝統文化を、5・6年生たちがしっかりと引き継いでくれています。誇らしげで勇壮な踊りに感激しました。



↑パーランクーは、沖縄独特の太鼓です。今年度は、黒ズボンに脚絆という衣装にもこだわっています。踊り手たちも、自然に力が入ってくるのでしょうか。手足に躍動感がみなぎっています。

6年生たちにとっては、この運動場での最後の運動会でした。全員の思いを引き受けて、全力でゴールに向かっていきます。→

